

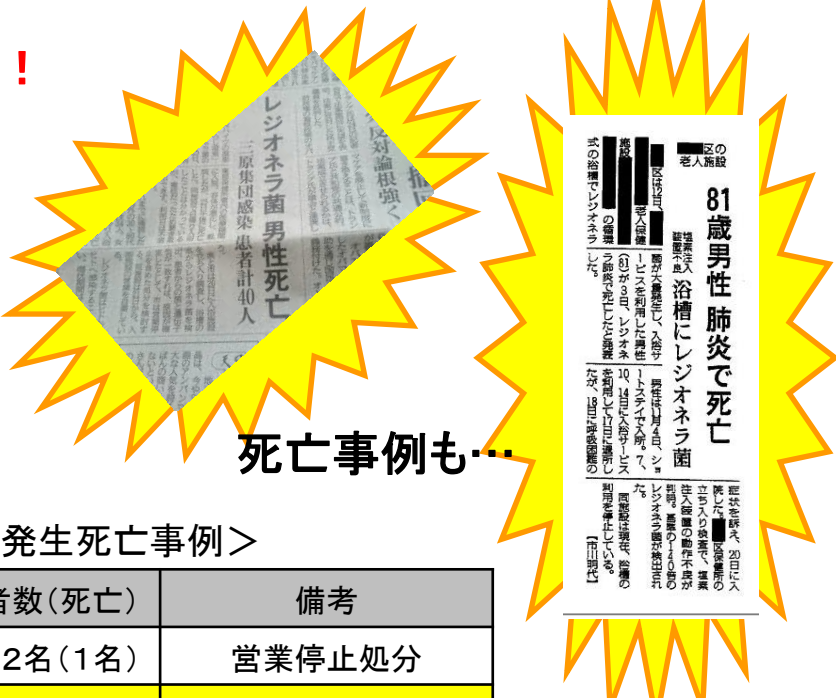
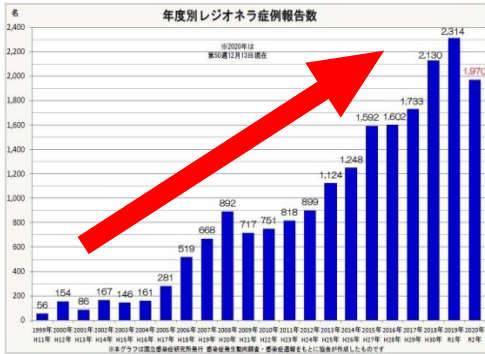
循環型浴槽の入浴施設は

レジオネラ症に要注意！



◆レジオネラ症、人ごとと思っていないですか？

患者数は20年前の40倍！



死亡事例も...

＜入浴施設における主な集団発生死亡事例＞

発生日月	都道府県	患者数(死亡)	備考
令和4年4月	兵庫県	2名(1名)	営業停止処分
平成29年3月	広島県	58名(1名)	営業停止処分、廃業
平成27年5月	岩手県	13名(1名)	営業停止処分、廃業
平成26年6月	埼玉県	3名(1名)	営業停止処分
平成25年2月	千葉県	1名(1名)	営業停止処分
平成23年11月	群馬県	1名(1名)	営業停止処分
平成14年7月	宮崎県	295名(7名)	営業停止処分

**広島県でも
重大事案発生！**

◆日常清掃・消毒で予防！検査で確認！

- ・浴槽等の日常清掃はもちろん、ろ過器や配管の消毒も定期的に
- ・法令義務である年2回の水質検査(毎日換水をしないう場合)を必ず実施し、安全と予防の効果を確認



◆「いつもと違う」に要注意！

- 通常と異なる状態のとき、レジオネラ属菌が発生しやすくなります
- 例)・休止中で貯湯槽等の設備に温水を溜めた状態からの再開
- ・入浴者数が多くなったとき(汚濁負荷が大きくなる)



レジオネラ症に関する豆知識



<レジオネラ症とは？>

- レジオネラ属菌による細菌感染症
→自然環境(河川、湖水、温泉や土壌など)に生息している細菌
- 施設の管理が不十分な場合、環境中のレジオネラ属菌が配管内等で増殖し、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾール(細かい霧や水蒸気)を人が吸い込むことで感染する
- 症状は発熱、肺炎、倦怠感などで人から人への感染はない
- 患者は高齢男性が多く、さらに、高齢者や新生児は重症化しやすく、命にかかわることがある

<なぜ循環式浴槽は注意が必要？>

- レジオネラ属菌が20℃～50℃で増殖しやすいという特徴に対して、浴槽水は適温で、かつ栄養分(人の汚れ等)が豊富
- 循環水は、ろ過器などで汚れを物理的に除去するだけで、水に溶け込んだ汚れ成分までは除去できない。また、循環配管やろ過器、集毛器は汚れた温水が滞留しやすい。



温かく、汚れ成分が溜まる場所でレジオネラ属菌が増殖！

<発生源、予防策、注意点等>

発生源	予防策
貯湯槽	湯温を常に <u>60℃以上</u> に保ち、お湯を滞留させないようにする
ろ過器	<u>週1回以上の逆洗浄</u> により、汚れを排出する
循環配管	<u>年1回程度</u> 、循環配管内の汚れ成分(ぬめり等)を除去し、消毒する
シャワー	循環水はシャワーに使用しないようにする
集毛器	<u>毎日清掃</u> を行い、内部の毛髪や汚れ成分(あか、ぬめり等)を除去し、消毒する 網カゴと併せて、集毛器本体の内壁も清掃、消毒する
オーバーフロー水	オーバーフロー水は、原則、浴用に使用しない ⇒やむを得ず使用する場合は、オーバーフロー回収槽を定期的に清掃、消毒し、オーバーフロー水を塩素系薬剤等により消毒する

- 遊離残留塩素濃度を定期的に測定し、0.4～1.0 mg/L に保つ。
- 浴槽水の水質検査(レジオネラ属菌、大腸菌群等)を実施する。

┌	ろ過器未使用及び毎日完全換水している場合	⇒ 1回以上/年
	ろ過器を使用し、毎日換水していない場合	⇒ 2回以上/年
	消毒が塩素消毒でない場合	⇒ 4回以上/年